

令和元年度 第4回湖西市水道事業経営方針検討会 議事要旨

1. 日 時：令和2年3月10日（火）13：30～15：30

2. 場 所：湖西浄化センター 2階会議室

3. 出席者

委員長)

愛知大学地域政策学部 教授： 菊地 裕幸 氏

委員)

豊橋技術科学大学大学院工学研究科建築・都市システム学系 教授： 井上 隆信 氏

公益社団法人日本水道協会調査部 主任調査役： 山本 晃嗣 氏

一般社団法人地方公会計研究センター 理事： 玉澤 一雄 氏

税理士法人ヤマダ会計 公認会計士： 新村 弥加 氏

事務局)

湖西市環境部水道課

株式会社東京設計事務所

4. 概 要

1) 委員長挨拶

2) 議事要旨

事務局から配布資料についての説明が行われた後、配布資料に対する意見交換を行った。主な内容は次のとおりである。委員から頂いた意見を踏まえ、引き続き検討を進めていくこととなった。最後に、事務局から次回開催について後日調整を行うことを連絡し、閉会した。

委員名については敬称略とする。

①資料に対する質疑応答

- 委員 資料2の4、5ページのグラフの横軸については何を示しているのか。
- 事務局 横軸に関して特に意味はなく、腐食速度の小さい順にならべただけのものであり、年数や箇所の数を示しているわけではない。
- 委員 このグラフから何がわかるのか。
- 事務局 何年まで持つかを今後検討していきたい。実際の傷の厚さとしては0.2mmから最大でも4mm程度、②の箇所は腐食の進行が激しいが傷の形状から施工時についた傷ではないかと考える。土壌や地形水系から差がつくかと考えたがそのような結果にはならなかった。次年度にメーカーなどの知見も踏まえて更新基準年数について、検討し委員の皆様のご意見をいただきたい。
- 委員 グラフからは①と②の腐食が速く、③と⑤は遅い、④はその中間ではないかと考えるがこうしたことから検討をしていただきたい。
- 委員 資料3の第3章23ページの老朽化資産の推移などが水道ビジョンの取り組みによって推移がどう変わるかなどを示したほうが分かりやすいのではないと思う。自己水量についても、井戸の更新を行うことでどれだけの取水ができるようになるのかを示したほうがよい。
- また、企業債について近年残高が減少し続けているが、料金負担の世代間公平性を考えると新たな借り入れもしたほうが良いのではと思うがどのように考えているか。
- 事務局 井戸関係は過去のデータからどの程度取水できるかを現在検討中のため、県水割合の変化も含めて次年度示したい。
- そういったことも含めて投資財政計画に反映していきたい。特にロードマップを重視しており、更新時期などを含めた10年間の計画を示したい。
- 起債について、低金利時代ということもあり、これまでは現金にてやり繰りしてきたが、持続的な水道という面でも企業債の借入は必要になると考える。次年度に委員から意見を頂きながら、資金調達計画という形で示し、料金体系についても今後の方向性などを取りまとめていきたい。

- 委員 資料3の第1章について、6ページ目の国の取り組みの概要の部分で民営化等については、確かに総務省は民営化も謳っているが、水道事業に関しては市民に誤解を与える可能性があるので、民間活用等に変えたほうが良い。
水道法改正の概要部分について、施設台帳の義務化とともに水道施設の維持修繕の義務化されたことを追記し、官民連携の推進や指定給水装置工事事業者制度の改善について文末を導入にするなど合わせたほうが良い。
また、第4章の71ページのBCPや防災計画は水道に特化したものを想定しているという認識で相違ないか。
- 事務局 水道に特化したものを想定している。今後施設統廃合により施設数が変わることなどからも現実に即したBCPや防災計画を策定したいと考えている。
- 委員 資料2の管体調査結果について、②の施工時の傷について、②の管路の他の箇所調査などはしないという認識で相違ないか。
- 事務局 管体調査は市としても初めての試みであった。5箇所のうち2番だけが突出した傷の深さであった。②については本当に施工時についた傷なのかといったことを今後精査するとともに、調査結果を整理する際には他の4箇所から分析を行いたい。
- 委員 資料3の計画期間について50年となっているが見直しを行うことや予測精度を考えると50年と長くなくてもよいのではないかと考える。
また、29ページの業務体制について、技術職員を減らして事務職員を増やしているのはなぜか。
- 事務局 計画期間について、総務省としては10年以上となっているが、厚労省の水道ビジョンとしては50年100年を見据えるとしていることから、大きな方針を検討するために、50年の見通しを作成し、具体的な見通しとしては10年間の精度を高めたロードマップ・財政計画を作成し5年ごとにPDCAを回していきたいと考えている。人事面については、水道課として市に要望はしているものの、現実的には人員確保が課題となっており、他事業体との人事交流や官民連携などで技術力は確保していきたいと考えている。当然、官民連携においても技術力確保に係る費用が増加すると考えられるが統廃合により削減される維持管理費などから増加分を補っていききたい。
- 委員 事務職員を増やしたことによってメリットはあるのか何か変わることはあるのか、市民に対しては説明が必要と考える。
企業債残高は現状少なくなっているため、世代間公平性を考えたときに、市民への説明は必要だが、企業債の借り入れは必要かと考える。
また、82ページ利用者サービスの拡充について現時点でどういったことをやっていくのかがよくわからない。検討を行うのは構わないが、公営企業会計を生かして、

決算説明会を開くなど具体的な施策を示していただいたほうが良いと考える。

委員 資料 2 腐食速度についてこの腐食箇所について湖西市全体なのか示している箇所だけなのか。

事務局 地図に示している箇所のみ調査となっている。管種や口径、地質などを踏まえて調査箇所を選定した。結果として北部南部については調査していない形となったが、初めから選定箇所として除外していたわけではない。

委員 資料 2 について腐食速度で評価はできるものなのか。平均的に毎年腐食が進んでいくものなのか、最初はあまり腐食が進まないが、一旦腐食が始まればその後は加速度的に進んでいくと考えたほうが妥当なのではないか？

平均的に腐食が進むとした場合実際よりも腐食の速さを過少評価し、安全側でない評価になってしまうのではないか。

事務局 ご指摘の点も踏まえて来年度検討したい。

委員 資料 3 の 62 ページの残留塩素管理について、将来水需要が減少すると滞留時間は長くなり残留塩素濃度は低下すると考えられるが、シミュレーション等で把握することはできるのか。

事務局 水需要予測を小地域ごとに行ったうえで管網計算に反映しているため、ある程度は将来の滞留時間は予測できると考えている。

委員 スマートメーターなどにより詳細に利用者の水需要などがわかればどの程度の塩素消費になるのか把握できるようになるのではと考える。一方で費用なども発生するため難しいとも思う。

事務局 実際には、次年度以降、管網計算から末端と考えられる位置を把握し、実際に残留塩素濃度の測定を行い、シミュレーションとの乖離の補正を行う予定である。頂いた意見も踏まえて具体化していきたい。

委員 資料 2 の管体調査結果が分かりにくいのもっと詳しく説明したほうがよいのかと考える。

また、資料 3 の 29 ページの技術職員について、異動はないと考えてよいのか。

事務局 技術職員についても通常の人事異動制度となっており、今年度も 6 名のうち半分は元々水道の経験があり戻ってきた形ではあるが異動であり、他 3 名については水道業務未経験という状況である。ただ事務職員であっても施設関係の職務に携わる職員もいることから、こうした状況も踏まえて人事交流などで技術力は身に付けていきたい。

委員 人事交流も結構だが、水道課として市に対し計画的な人事配置や採用といったことも訴えていくべきかと思う。

委員の意見を聞いて、より具体的なことについても示したほうがよいと感じた。

資料 3 の 82 ページの利用者サービスの拡充について、市民が水道事業に関心を持てる環境づくりということなので、内容としてはワークショップを開くなど、市民に自分事にしていただくという方向性であると思うのでサービスの拡充というのは少々違和感がある。どのようにして湖西市らしさを付加できるかを考えていただきたい。

事務局 ご指摘を多く頂いている資料 2 についてグラフの見せ方など全般的に修正を行いたい。

資料 3 についてはこちらの説明が不足している面もあると思うが、今回は施策の方向性を示し、次年度これに基づき実際に行う事業を整理し、指標や費用を明確にしていきたい。

82 ページの利用者からの理解については、ホームページでの情報公開も現状では十分とは言えない中で、相互理解を打ち出す以上は、対話の場をどう設けるかなど、具体的にどういった内容ができるかを次年度以降にまた検討していきたい。

委員 資料 3 の 40 ページの指標値について、現在の分析は一つ一つの指標についてであるが、指標分析は多面的に見る必要があるのではと考える。複数の指標を組み合わせたような分析をしてもらえればと思う。

また、70 ページの表記について管体調査は来年度はやらないという理解でよろしいか。

事務局 管体調査について来年度は予定していない。次年度に管路更新の優先順位を見直す中で管体調査結果をひとつの指標としてメーカーの知見なども踏まえて管路の評価を行っていきたい。

委員 耐震化優先管路というのは湖西市ですでにあるのか。

事務局 耐震化優先管路は、配水場等からの基幹的な管路と重要施設への管路であり、厚労省においても基幹管路、重要給水施設管路という定義があり、湖西市としてもすでに設定しているところである。なお、今年度実施している施設統廃合検討に伴い、これら路線は一部見直しが必要となる。

②今年度の検討会に対する全体感想

委員 湖西市は他の事業体と比べて余裕があるのではないかと考える。新水道ビジョンをつくるにあたっては夢のある他の事業体の先進事例となれるような取り組みが可能ではないかと期待する。

委員 ビジョン策定にあたって多岐にわたる分析をしていただいていると感じている。これからの水道は事業環境悪化する見込みであり湖西市も例外ではない。そのため将来 50 年を見据えて、財政計画は 10 年等の短期間で見えていくことは重要だと考える。またこのビジョンを市民の方々に説明するにあたってはもう少しわかりやすく実施した際のメリットを示す必要があると考える。

委員 検討会資料において委員意見も反映して作成していただき内容の濃い検討会であったと思う。来年度以降の施策の検討にあたっては、市民に向けてわかりやすく実効性の高いビジョンを作る必要があると考える。

委員 水道事業で専門外のことが多かったが、来年度以降は投資・財政計画の検討があるということで力になりたいと思う。

委員 水道事業について専門ではないが、この検討会を通じて勉強させていただいた。次年度はさらに市民にわかりやすく、厳しい状況などを知ってもらい、我が事として考えてもらう新水道ビジョンを作っていきたい。また、湖西市ならではの独自性をもったビジョンをつくっていただきたい。

以 上